

## イエス様の裁判④ 十字架の判決

ルカの福音書23章13-25節

### 概観

- 序)①サンヘドリンの裁判②ピラトの裁判  
③ヘロデの裁判④ピラトの再度の裁判
- |            |        |
|------------|--------|
| 1、ピラトの提案   | V13-16 |
| 2、指導者たちの要求 | V18-19 |
| 3、十字架刑の確定  | V20-25 |
| 4、適用と祈り    |        |

### I ピラトの提案

- 1、イエス様は無罪
  - 2、妥協的提案(矛盾した内容)
  - 3、ピラトの老練さ
- ⇒妥協による政治的解決を計るピラト
- ①福音書はローマ人ピラトにやや同情的
  - ②契約の民であるユダヤ人指導者に対しては厳しく感じられるが、それは特別な恵みへの責任であり、ユダヤ人迫害の根拠とならない十字架は全人類の罪のため マタイ27:24-26

### II 指導者たちの要求

- 1、指導者の主張と動機
  - 2、民衆と指導者の一致
  - 3、バラバの十字架をイエス様へ
- ⇒①聖書の基準がなければ、私たちは良心を殺し、利害と群衆の感情(群衆心理・ポピュリズム)に左右され、政治的解決を計り、判断を誤ることになる
- ②全人類の代表者たち(王、ローマ総督、大祭司、指導者、ユダヤ民衆)が一致して主を十字架へ
- ③バラバの犯罪を聖書は詳述せず

### III 十字架刑の確定

- 1、ピラトの良心の葛藤
  - 2、政治的妥協 マタイ27:11-18
  - 3、妻の進言 27:19
  - 4、暴動への恐れと地位の固執 27:20-25
  - 5、バラバの十字架が主に マタイ27:26
- ⇒①聖書を人生の判断基準とするか②イエス様を救い主とするか と言う2大基準がピラト(いわゆる良い未信者)からキリスト者を区別する ヨハネ19:6-16

### IV 適用と祈り

- 1、人々の罪と主の十字架 ローマ3:9-18  
→全人類の罪と赦しが聖書の主題
- 2、バラバの身代わりとしての十字架  
→バラバの犯罪より、「身代わり」が重要
- 3、わたしのための十字架  
→全人類のため、私個人のため  
⇒キリストの十字架以外に救いはない  
信仰とは父の愛に立ち帰り、キリストの十字架へと方向転換し、神の子になること